

平成 2 1 年度
教育に関する事務の管理及び執行の
点検及び評価報告書

平成 22 年 8 月 25 日

長岡市教育委員会

教育委員会事務の点検及び評価について

1 点検及び評価の趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、平成20年度から教育委員会は毎年度、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。

本報告書は、効果的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たすために、平成21年度の長岡市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行った結果を、長岡市教育委員会事務評価委員会の意見等を付して、報告するものです。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関連条文抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価の方法

(1) 点検及び評価の対象

点検及び評価は、長岡市教育委員会が執行している事務・事業のうち「長岡市総合計画」（平成19年3月策定）の基本構想で掲げた政策である「人材と文化をはぐくむ人間性豊かなまちの実現」及び「生涯健やかで、いきいきと暮らせるまちの実現」の中から教育委員会に関連のあるものを中心に行いました。

(2) 点検及び評価の手順

平成22年4月から8月にかけて、平成21年度に長岡市教育委員会において執行した事務について、次の手順で点検及び評価を行いました。

教育委員会事務局における点検の実施



事務評価委員会による教育委員及び事務局職員へのヒアリング



事務評価委員会による評価報告書の作成



教育委員会による評価報告書の決定



市議会への報告及び公表

【目 次】

事務評価委員会報告書

I 教育委員会会議の開催及び審議状況

1	教育委員会 4月定例会 (平成 21 年 4 月 17 日開催)	1
2	教育委員会 5月定例会 (平成 21 年 5 月 25 日開催)	1
3	教育委員会 6月定例会 (平成 21 年 6 月 25 日開催)	2
4	教育委員会 7月定例会 (平成 21 年 7 月 21 日開催)	2
5	教育委員会 8月定例会 (平成 21 年 8 月 26 日開催)	3
6	教育委員会 9月定例会 (平成 21 年 9 月 28 日開催)	4
7	教育委員会 10月定例会 (平成 21 年 10 月 14 日開催)	4
8	教育委員会 11月定例会 (平成 21 年 11 月 19 日開催)	5
9	教育委員会 12月定例会 (平成 21 年 12 月 1 日開催)	5
10	教育委員会 1月臨時会 (平成 22 年 1 月 13 日開催)	5
11	教育委員会 1月定例会 (平成 22 年 1 月 25 日開催)	6
12	教育委員会 2月定例会 (平成 22 年 2 月 18 日開催)	6
13	教育委員会 3月臨時会 (平成 22 年 3 月 12 日開催)	7
14	教育委員会 3月定例会 (平成 22 年 3 月 18 日開催)	7
15	施設訪問	9
○	教育委員会会議等に関する点検・評価及び今後の取組み等	9

II 教育委員会における事務の点検・評価について

1	生涯健やかで、いきいきと暮らせるまちの実現	10
(1)	子育てを支援する場の整備	10
○	家庭・地域の子育て支援施設の整備・運営 (子ども家庭課)	10
○	保育園施設等の整備 (保育課)	11
○	児童館・児童クラブ等の整備・運営 (子ども家庭課)	11
(2)	子育て支援サービスの拡充	12
○	家庭・地域の子育てを支援する相談体制の整備① (子ども家庭課)	12
○	家庭・地域の子育てを支援する相談体制の整備② (保育課)	13
○	保育サービスの充実 (保育課)	13
○	子育てを支援するサービスの拡充① (子ども家庭課)	14
○	子育てを支援するサービスの拡充② (保育課)	14
2	人材と文化をはぐくむ人間性豊かなまちの実現	15
(1)	やる気や学ぶ意欲を引き出す教育の推進	15
	(熱中！感動！夢づくり教育の推進)	
○	どの子にもわかる授業の実現① (学校教育課)	15
○	どの子にもわかる授業の実現② (学務課)	16
○	どの子にもわかる授業の実現③ (教育センター)	16
○	地域の力、市民の力を生かした教育の推進 (学校教育課)	17
○	熱中・感動体験活動の充実 (学校教育課)	18
○	幼稚園教育・高等教育の振興① (学務課)	18
○	幼稚園教育・高等教育の振興② (保育課)	19
(2)	子どものサポート体制の充実	20
○	生徒指導の充実 (学校教育課)	20
○	特別支援教育の充実 (学校教育課)	21
○	心のケア対策の充実 (学校教育課)	22
(3)	青少年の健全育成活動の推進	22
○	交流・体験学習環境の充実 (子ども家庭課)	23
○	非行防止活動の充実 (子ども家庭課)	23
(4)	安全・安心な教育環境の整備	24
○	子どもの安全確保を図る体制づくりの推進 (学校教育課)	24
○	防災・防犯教育の充実 (学校教育課)	25
○	学校施設における安全性の確保 (教育総務課)	25
(5)	歴史的・文化的遺産の継承及び活用促進	26
○	歴史的・文化的遺産の保存及び継承 (科学博物館)	26

(6) 市民主体の生涯学習の推進	27
○ 生涯学習機会の充実①（中央公民館）	27
○ 生涯学習機会の充実②・生涯学習関連施設の整備①（中央図書館）	28
○ 生涯学習関連施設の整備②（科学博物館）	28
(7) スポーツ・レクリエーション活動の推進	29
○ 生涯スポーツ活動の充実（スポーツ振興課）	29
○ 競技スポーツの振興（スポーツ振興課）	30
○ スポーツ・レクリエーション施設の整備及び管理運営（スポーツ振興課）	31

平成 22 年 8 月 10 日

長岡市教育委員会

委員長 大橋 岑生 様

長岡市教育委員会事務評価委員会

委員長 原田 義夫

副委員長 中曾根 勝彦

委員 樋熊 憲子

委員 永井 千恵子

事務評価委員会報告書

平成 21 年度に執行された長岡市教育委員会の会議と所管事業の内容及びその点検・評価結果について、教育委員並びに所管の課長からヒアリング調査を行い、長岡市教育委員会事務評価委員会として協議・検討を行った。その結果、会議は適正に開催され、それぞれの施策で掲げている目標も概ね達成しているものと評価したので、これを長岡市教育委員会事務評価委員会設置要綱（平成 20 年 5 月 30 日 教育委員会告示第 18 号）第 2 条の規定に基づき報告する。

なお、個別の事業に対する要望事項や意見があるものについては、それぞれの項目に記載した。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 27 条の規定に基づき、長岡市教育委員会の平成 21 年度における事務の管理及び執行の状況について、次のとおり点検及び評価したので、報告します。

I 教育委員会会議の開催及び審議状況

平成 21 年度に教育委員会定例会を 12 回、臨時会を 2 回開催した。定例会のうち 4 回は教育委員会事務局のある幸町分室以外の施設で開催し、81 件の議案を審議した。また、協議報告事項は 77 件であった。

さらに、施設訪問を 8 回実施し、16 か所で授業（保育）参観・懇談・給食試食及び施設内視察を行った。

審議の結果は、以下のとおりである。

1 教育委員会 4 月定例会

- 日 時 平成 21 年 4 月 17 日（金曜日）
午後 4 時から午後 4 時 40 分まで
- 場 所 長岡市教育委員会会議室
- 傍聴人 なし
- 議 事（3 件）

議案第 26 号	長岡市立保育園等一時保育事業実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第 27 号	附属機関委員の委嘱について	原案決定
議案第 28 号	専決処理について（補正予算の要求について）	原案承認

- 協議報告事項（5 件）
 - ・平成 21 年度長岡市成人式について
 - ・「子育ての駅千秋」オープン記念講演会について
 - ・まちなかキャンパス（仮称）基本構想・基本計画について
 - ・長岡城跡の調査について
 - ・兼続お船ミュージアム（与板歴史民俗資料館）の動向について

2 教育委員会 5 月定例会

- 日 時 平成 21 年 5 月 25 日（月曜日）
午後 3 時 30 分から午後 5 時まで
- 場 所 ながおか市民センター 201 会議室
- 傍聴人 1 人
- 議 事（7 件）

議案第 29 号	条例制定の申出について（長岡市馬高縄文館条例の制定）	原案決定
議案第 30 号	条例改正の申出について（長岡市地域資料館条例の一部改正）	原案決定
議案第 31 号	長岡市児童館管理規則の一部改正について	原案決定

議案第 32 号	長岡市旧長谷川家住宅条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第 33 号	長岡市旧長谷川家収蔵品展示室条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第 34 号	補正予算の要求について	原案決定
議案第 35 号	附属機関委員の委嘱について	原案決定

○ 協議報告事項（10件）

- ・平成21年度教育委員の学校・保育園等訪問について
- ・新型インフルエンザ（ブタインフルエンザ）の学校・保育園の対応について
- ・就学支援リーフレット「みんないきいき みんなすこやか」について
- ・平成21年度長岡市成人式について
- ・平成21年度第1回社会教育委員会、公民館運営審議会会議報告について
- ・大矢紀画伯「スケッチ&解説会」について
- ・栃尾美術館「与板が生んだ日本画家展」について
- ・本の取次所の設置について
- ・第8回全国藩校サミット in 長岡開催記念「長岡藩主牧野家と崇徳館」について
- ・海洋スポーツクラブ育成事業の概要について

3 教育委員会 6月定例会

- 日 時 平成21年6月25日（木曜日）
午後3時30分から午後5時まで
- 場 所 長岡市教育委員会会議室
- 傍聴人 1人
- 議 事（2件）

議案第 36 号	専決処理について（附属機関委員の委嘱について）	原案承認
議案第 37 号	専決処理について（補正予算の要求について）	原案承認

○ 協議報告事項ほか（6件）

- ・6月議会における教育委員会関係の質問事項について
- ・平成21年度学校・子どもかがやき塾夢企画事業の実施校について
- ・平成21年度地域・子ども元気塾助成団体について
- ・平成20年度麻しん予防接種の実施結果について
- ・青少年健全育成のつどい「歌手 米良美一氏 講演会」の開催について
- ・子育てフェスティバル2009の開催について

4 教育委員会 7月定例会

- 日 時 平成21年7月21日（火曜日）
午後4時から午後5時15分まで
- 場 所 長岡市教育委員会会議室

- 傍聴人 なし
- 議 事 (5件)

議案第 38 号	平成 22 年度使用教科用図書採択について	原案決定
議案第 39 号	長岡市馬高縄文館条例施行規則の制定について	原案決定
議案第 40 号	長岡市地域資料館条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第 41 号	長岡市教育委員会非常勤嘱託員の任用等に関する要綱の一部改正について	原案決定
議案第 42 号	専決処理について (補正予算の要求について)	原案承認

- 協議報告事項 (9件)
 - ・ 教育委員会関係工事入札状況
 - ・ 長岡市教育委員会表彰 表彰基準 (内規) の一部改正について
 - ・ 平成 21 年度版『子育てガイド』の発行について
 - ・ 長岡市子育て応援プラン後期計画策定に関するニーズ調査の結果について
 - ・ 長岡市私立幼稚園耐震診断費補助金要綱の制定について
 - ・ 第 8 回全国藩校サミット in 長岡実施結果について
 - ・ 平成 21 年度 第 1 回長岡市栃尾美術館協議会報告について
 - ・ 科学博物館夏休み特別展・企画展のご案内について
 - ・ 第 39 回教育講演会について

5 教育委員会 8 月定例会

- 日 時 平成 21 年 8 月 26 日 (水曜日)
午後 2 時 30 分から午後 4 時まで
- 場 所 長岡市寺泊文化センターはまなす 大研修室
- 傍聴人 2 人
- 議 事 (7件)

議案第 43 号	事務の委任について	原案決定
議案第 44 号	条例改正の申出について (長岡市立学校使用条例の一部改正)	原案決定
議案第 45 号	長岡市教育委員会組織規則及び長岡市教育委員会公印規則の一部改正について	原案決定
議案第 46 号	長岡市教育委員会事務決裁規程の一部改正について	原案決定
議案第 47 号	長岡市馬高縄文館名誉館長設置要綱の制定について	原案決定
議案第 48 号	平成 20 年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について	原案決定
議案第 49 号	補正予算の要求について	原案決定

- 協議報告事項 (9件)
 - ・ 平成 21 年度長岡市青少年健全育成総合対策実施計画について
 - ・ 平成 21 年度長岡市成人式 (8 月実施分) について
 - ・ 子どもとポニーのワクワク祭り (第 40 回子どもフェスティバル・第 10 回ながおかポニーカーニバル) について
 - ・ 平成 21 年度第 2 回社会教育委員会、公民館運営審議会会議報告について

- ・平成21年度第1回長岡市図書館協議会会議報告について
- ・中央図書館「文化講座」の開催について
- ・栃尾美術館「白クマとイヌイットアート展」の開催について
- ・「馬高縄文館－火焰土器ミュージアム－」開館について
- ・寺泊水族博物館「里山おもしろ生物探索会 親子で「水族館の日本海」体験」について

6 教育委員会 9月定例会

- 日 時 平成21年9月28日（月曜日）
午後3時から午後4時45分まで
- 場 所 馬高縄文館 学習室
- 傍聴人 なし
- 議 事（5件）

議案第50号	長岡市学校給食検討会議設置要綱の制定について	原案決定
議案第51号	長岡市平成21年度子育て応援特別手当支給事業実施要綱の制定について	原案決定
議案第52号	長岡市歴史的資料の保存及び利用に関する要綱の一部改正について	原案決定
議案第53号	附属機関委員の委嘱について	原案決定
議案第54号	臨時代理について（事務の委任について）	原案承認

- 協議報告事項（10件）
 - ・9月議会における教育委員会関係の質問事項について
 - ・平成21年度全国・学力学習状況調査結果分析（市全体）の活用について
 - ・第8回いきいき教育推進懇談会について
 - ・平成21年度就学時等家庭教育講座の実施について
 - ・平成22年度保育園児の入園募集について
 - ・郷土交流室の開設について
 - ・展示会「復興の軌跡」の開催について
 - ・歴史講座「中越大震災～史料保存の現場から」の開催について
 - ・長岡城跡発掘調査について
 - ・全国中学校体育大会出場者の成績について

7 教育委員会 10月定例会

- 日 時 平成21年10月14日（水曜日）
午後4時から午後5時まで
- 場 所 長岡市教育委員会会議室
- 傍聴人 なし
- 議 事（1件）

議案第55号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について	原案決定
--------	-----------------------	------

- 協議報告事項（４件）
 - ・ポニー関連事業の実施状況について
 - ・財産の取得（子育ての駅ちびっこ広場（仮称））について
 - ・文芸講演会の開催（１１月１日）について
 - ・米百俵号（１号車）の新車入替えについて

8 教育委員会 11月定例会

- 日 時 平成21年11月19日（木曜日）
午後3時から午後4時30分まで
- 場 所 山古志支所301会議室
- 傍聴人 1人
- 議 事（1件）

議案第56号	補正予算の要求について	原案決定
--------	-------------	------

- 協議報告事項（1件）
 - ・平成22年度の新規事業について

9 教育委員会 12月定例会

- 日 時 平成21年12月1日（火曜日）
午後1時30分から午後4時30分まで
- 場 所 長岡市教育委員会会議室
- 傍聴人 なし
- 議 事（1件）

議案第57号	平成22年度当初予算の要求について	原案決定
--------	-------------------	------

- 協議報告事項（2件）
 - ・熱中！感動！夢づくり教育の中間評価結果について
 - ・平成21年度第3回社会教育委員会、公民館運営審議会会議報告について

10 教育委員会 1月臨時会

- 日 時 平成22年1月13日（水曜日）
午前9時から午前9時45分まで
- 場 所 長岡市教育委員会会議室
- 傍聴人 なし
- 議 事（1件）

議案第1号	平成22年度全国学力・学習状況調査への参加について	原案決定
-------	---------------------------	------

- 協議報告事項（1件）
 - ・認定子ども園について

11 教育委員会 1 月定例会

- 日 時 平成 22 年 1 月 25 日（月曜日）
午後 3 時 30 分から午後 4 時 40 分まで
- 場 所 長岡市教育委員会会議室
- 傍聴人 なし
- 議 事（2 件）

議案第 2 号	長岡市北越戊辰戦争伝承館（仮称）検討委員会設置要綱の制定について	原案決定
議案第 3 号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について	原案決定

- 協議報告事項（3 件）
 - ・ 1 2 月議会における教育委員会関係の質問事項について
 - ・ 川口町との合併の経過について
 - ・ 平成 21 年度 第 2 回長岡市栃尾美術館協議会報告について

12 教育委員会 2 月定例会

- 日 時 平成 22 年 2 月 18 日（木曜日）
午後 3 時から午後 5 時 20 分まで
- 場 所 長岡市教育委員会会議室
- 傍聴人 なし
- 議 事（15 件）

議案第 4 号	平成 22 年度学校教育の努力点について	原案決定
議案第 5 号	条例制定の申出について （長岡市川口文化会館条例の制定）	原案決定
議案第 6 号	条例制定の申出について （長岡市地域子育て支援センター条例の制定）	原案決定
議案第 7 号	条例改正の申出について （長岡市立学校使用条例の一部改正）	原案決定
議案第 8 号	条例改正の申出について （長岡市学校給食共同調理場条例の一部改正）	原案決定
議案第 9 号	条例改正の申出について （長岡市立学校設置条例の一部改正）	原案決定
議案第 10 号	条例改正の申出について （長岡市保育園条例の一部改正）	原案決定
議案第 11 号	条例改正の申出について （長岡市公民館条例の一部改正）	原案決定
議案第 12 号	条例改正の申出について （長岡市文化財保護条例の一部改正）	原案決定
議案第 13 号	条例改正の申出について （長岡市地域資料館条例の一部改正）	原案決定
議案第 14 号	条例改正の申出について （長岡市子育ての駅条例の一部改正）	原案決定
議案第 15 号	条例改正の申出について （長岡市青少年育成センター設置条例の一部改正）	原案決定
議案第 16 号	専決処理について （補正予算の要求について）	原案承認
議案第 17 号	補正予算の要求について	原案決定
議案第 18 号	校長、教頭の人事異動の内申について	原案決定

- 協議報告事項（6件）
 - ・平成22年度長岡市教育委員会当初予算の概要について
 - ・食に関する調査の実施について
 - ・平成22年度「熱中！感動！夢づくり教育」の概要について
 - ・平成21年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果と長岡市の比較・考察について
 - ・平成21年度文部科学大臣優秀教員表彰について
 - ・平成21年度第4回社会教育委員会、公民館運営審議会会議報告について

13 教育委員会3月臨時会

- 日 時 平成22年3月12日（金曜日）
午後1時30分から午後1時40分まで
- 場 所 長岡市教育委員会教育長室
- 傍聴人 なし
- 議 事（1件）

議案第19号	職員人事について	原案決定
--------	----------	------

- 協議報告事項 なし

14 教育委員会3月定例会

- 日 時 平成22年3月18日（木曜日）
午後1時30分から午後3時20分まで
- 場 所 長岡市教育委員会会議室
- 傍聴人 なし
- 議 事（30件）

議案第20号	平成22年度社会教育の基本方針について	原案決定
議案第21号	平成22年度使用教科用図書の採択について	原案決定
議案第22号	長岡市川口文化会館条例施行規則の制定について	原案決定
議案第23号	長岡市地域子育て支援センター条例施行規則の制定について	原案決定
議案第24号	長岡市教育委員会組織規則の一部改正について	原案決定
議案第25号	長岡市教育委員会公印規則の一部改正について	原案決定
議案第26号	長岡市立学校通学区域規則の一部改正について	原案決定
議案第27号	長岡市立学校管理運営に関する規則の一部改正について	原案決定
議案第28号	長岡市保育園条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第29号	長岡市公民館条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第30号	長岡市地域資料館条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第31号	長岡市立学校栄養士、管理員、調理師等のサービスに関する規則の一部改正について	原案決定

議案第 32 号	長岡市教育委員会の職員の職名に関する規則の一部改正について	原案決定
議案第 33 号	長岡市教育委員会教育長に対する事務の委任等に関する規則の一部改正について	原案決定
議案第 34 号	長岡市子育ての駅条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第 35 号	長岡市青少年育成センター設置条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第 36 号	長岡市立幼稚園管理運営に関する規則の一部改正について	原案決定
議案第 37 号	長岡市立図書館運営規則の一部改正について	原案決定
議案第 38 号	長岡市川口地域子育て支援育児用品給付事業実施要綱の制定について	原案決定
議案第 39 号	長岡市放課後児童健全育成事業実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第 40 号	長岡市立保育園延長保育事業実施要綱の制定について	原案決定
議案第 41 号	長岡市地域子育て支援センター事業実施要綱の制定について	原案決定
議案第 42 号	長岡市立保育園等一時保育事業実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第 43 号	長岡市歴史的資料の保存及び利用に関する要綱の一部改正について	原案決定
議案第 44 号	長岡市教育委員会事務評価委員会設置要綱の一部改正について	原案決定
議案第 45 号	長岡市教育委員会非常勤嘱託員の任用等に関する要綱の一部改正について	原案決定
議案第 46 号	長岡市教育委員会事務決裁規程の一部改正について	原案決定
議案第 47 号	長岡市妊婦歯科健診実施要綱の制定について	原案決定
議案第 48 号	長岡市平成 21 年度子育て応援特別手当支給事業実施要綱の廃止について	原案決定
議案第 49 号	附属機関委員の委嘱について	原案決定

○ 協議報告事項（11件）

- ・ 3月議会における教育委員会関係の質問事項について
- ・ 平成22年4月1日付け組織変更について
- ・ 長岡市で制定している要綱の一部改正について
 - 長岡市立学校遠距離通学児童生徒通学支援及び通学費補助金交付要綱
 - 長岡市全国大会等出場者に対する助成金交付要綱
 - 長岡市立中学校部活動遠征費補助金交付要綱
 - 長岡市妊産婦及び乳児医療費助成事業実施要綱
 - 長岡市子どもの医療費助成事業実施要綱
- ・ 附属機関会議報告等について
 - 長岡市公立学校通学区域審議会
 - 長岡市社会教育委員会、長岡市公民館運営審議会
 - 長岡市図書館協議会
- ・ 子育ての駅ながおか市民防災センターのオープンについて

15 施設訪問

○16 施設を訪問

【内訳】 小学校 7、養護学校、保育園 3、その他教育施設 5

- (1) 平成 21 年 6 月 25 日（木曜日）
中野俣小学校、西谷小学校、豊田小学校
- (2) 平成 21 年 7 月 21 日（火曜日）
大積小学校、白山保育園、旧長谷川家住宅
- (3) 平成 21 年 8 月 26 日（水曜日）
寺泊水族博物館、白岩保育園
- (4) 平成 21 年 9 月 28 日（月曜日）
四郎丸小学校、馬高縄文館
- (5) 平成 21 年 10 月 14 日（水曜日）
山谷沢小学校、柿が丘学園
- (6) 平成 21 年 11 月 19 日（木曜日）
柿小学校、竹沢保育園
- (7) 平成 22 年 1 月 25 日（月曜日）
教育センター
- (8) 平成 22 年 2 月 18 日（木曜日）
養護学校

＜教育委員会会議等に関する点検・評価及び今後の取組み等＞

- 長岡市教育委員会会議規則に基づき、教育委員会会議を適正に執行した。
- 議案及び協議報告事項に対し、各委員から積極的な発言がなされ、十分な審議がなされた。
- より開かれた教育委員会を目指すため、教育委員会定例会を各地域の施設など市民に身近な場所で開催することに努めた。平成 21 年度は 5 月に「ながおか市民センター」、8 月に「寺泊文化センターはまなす」、9 月に「馬高縄文館」、11 月に「山古志支所」で定例会を開催した。平成 22 年度も継続する予定である。
- 上記の寺泊地域と山古志地域での開催については、各地域で発行している「支所からのお知らせ」に案内を掲載し、事前広報に努めた。
- 会議録については平成 20 年度からホームページで公開しており、平成 21 年度からは協議報告事項等も詳しく掲載し、審議の透明性を高めた。今後も継続していく。
- 施設訪問では、現場の状況を把握することに努めた。訪問後、教育委員から意見等が示され、各課の施策に活かされている。

＜事務評価委員会の意見等＞

- 定例会において、わかりづらい専門用語をできるだけ傍聴人等にわかりやすく伝えようという姿勢がよい。
- 生の議論を聞きたい方がもっといると思うので、傍聴に関する PR をもっと行っ

てほしい。

○地域的心声を施策に反映する教育委員会であってほしい。そのため、地域での開催にあたっては各地域の実情等を十分考慮して臨んでほしい。

○現場の生の声をとらえてほしい。そのための訪問を有効に行ってほしい。

II 教育委員会における事務の点検・評価について

平成19年3月に策定した「長岡市総合計画」に定める施策のうち、教育委員会で所管する施策について点検・評価を行った。

具体的には、各施策の柱ごとの「基本施策」について、平成21年度における目標値に対する達成状況を点検するとともに、個別の施策について点検・評価を実施したものである。

点検・評価の結果は、以下のとおりである。

1 生涯健やかで、いきいきと暮らせるまちの実現

(1) 子育てを支援する場の整備

目 標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成20年度 達成値	平成21年度 達成値
つどいの広場事業（ちびっこ広場）の実施箇所数を増やす。	1か所 (平成17年度)	3か所 (平成22年度)	2か所	2か所
保育園への入園待機状態を解消する。 【保育園待機児童数】	9人 (平成18年度)	0人 (平成22年度)	0人	0人
児童クラブを必要とする保護者が利用できる環境を整える。 【児童クラブ数、児童クラブ利用者数】	28地区 31クラブ 237,897人 (平成17年度)	34地区 47クラブ 352,500人 (平成22年度)	38地区 38クラブ 305,044人	38地区 39クラブ 278,466人

■施策の内容

【家庭・地域の子育て支援施設の整備・運営（担当：子ども家庭課）】

<21年度の取組み>

○緑あふれる広々とした公園の中に、雨や雪の日でも子どもたちが遊べる全天候型の広場と、子育て支援施設を一体的に整備した全国初の「子育ての駅千秋（てくてく）」を平成21年5月5日こどもの日に開設し、つどいの広場事業を実施している。

<成果及び今後の取組み等>

○平成21年度子育ての駅千秋の来場者数は178,517人であった。今後も市民参加型の事業運営を目指し、公募委員で組織する子育ての駅運営委員会を設

置し、利用者の立場に立った事業を展開するとともに、より良い活用方法を検討していく。

- 平成 22 年度は、つどいの広場事業を新たに「子育ての駅ながおか市民防災センター（ぐんぐん）」で実施。

＜事務評価委員会の意見等＞

- ハード面の施設が増えてきたが、ソフト面を充実させ、子育てをしやすい社会環境の整備をお願いしたい。
- 「てくてく」、「ぐんぐん」はとてもよい施設である。これからは引きこもりがちなお親への対策など、施設を有効活用するための方策の検討が必要と思う。
- 「てくてく」、「ぐんぐん」の活用方法として、誰でも利用者の輪に入れるような、また友達になれるようなソフトが必要と思う。

【保育園施設等の整備（担当：保育課）】

＜21 年度の取組み＞

- みしま中央保育園の整備増床を実施した。（定員 10 名増加した。）
- 認定こども園おひさま保育園を新設した。（定員 20 名受入した。）

＜成果及び今後の取組み等＞

- 引き続き今後の保育需要に見合う施設等の整備を推進していく。

【児童館・児童クラブ等の整備・運営（担当：子ども家庭課）】

＜21 年度の取組み＞

- 児童に健全な遊びを与えながら、その健康を増進するとともに、豊かな情操の形成を目指し、児童館を地域における青少年健全育成活動の拠点とするよう運営した。
- 児童クラブは、昼間保護者がいない小学校 1～3 年生を対象に、健全な遊びを中心とする健全育成事業を主に児童館で実施した。

＜成果及び今後の取組み等＞

- 人口増による大規模児童クラブについては、分割または増設を行った。
 - ① 富曾亀児童クラブを分割し、富曾亀第二児童クラブを開設
 - ② 川崎東児童クラブの増設
- 今後も、利用実態に応じて通年利用と一時利用に登録形態を分けるとともに、大規模児童クラブについては分割・増設を検討していく。

(2) 子育て支援サービスの拡充

目 標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成 20 年度 達成 値	平成 21 年度 達成 値
家庭児童相談室の認知度を高める。	43.7% (平成 15 年度)	50.0% (平成 20 年度)	56.5%	—
保育サービスに対する満足度を高める。	69.9% (平成 15 年度)	75.0% (平成 20 年度)	83.8%	—

※21年度空欄はアンケート調査を実施しなかったため

■施策の内容

【家庭・地域の子育てを支援する相談体制の整備①（担当：子ども家庭課）】

<21年度の取り組み>

- 児童虐待の防止等を目的に地域と協働した子ども家庭支援事業を開始し、地域で気軽に子育ての不安や悩みを相談できる環境づくりを推進した。
- ① 家庭児童相談員が地域子育て支援センターを定期的に訪問し、グループミーティングを開催した。
- ② 家庭児童相談員が乳幼児健診の会場に出向き、親子に声をかけながら育児等に関する相談に応じた。
- ③ 地域子育て支援センターや健診会場等で家庭児童相談室のリーフレットを配布し、家庭児童相談室のPRを行った。
- ④ コミュニティセンターで地域の見守り・発見から支援につながる体制について講演を行った。
- ⑤ 学校に出向き、児童虐待の気づきや支援のポイント等について意見交換や支援体制等の周知を行った。

<成果及び今後の取り組み等>

- 地域子育て支援センターへの定期的な訪問や、乳幼児健診に出向くことで、気軽に子育ての不安や悩みを相談できる機会を増やすことができた。
- 家庭の抱えるさまざまな問題に対応していくため、今後も子ども家庭支援事業を充実させていく。

<事務評価委員会の意見等>

- 不登校、ひきこもり、DVなどで悩んでいる親が多いと聞いている。相談窓口のPRと、気軽に利用できる体制整備をしてほしい。また、相談があった場合の長期的な対応と、学校教育課との連携にも配慮しながら、悩んでいる親が行ける場所の確保を検討してほしい。
- 家庭・地域が抱える子育ての悩みは、今日、非常に重要な課題であり、これをできるだけ上手く解決できるソフト面の更なる充実をお願いしたい。

【家庭・地域の子育てを支援する相談体制の整備②（担当：保育課）】

＜21年度の取組み＞

- 配慮を要する児童に早期に気づき、就学前から就学後まで一貫した計画のもと、継続した保護者・園支援を推進した。
- ①市政だよりや公共機関を通じ事業のPRを実施した。
- ②公私立保育園・幼稚園を訪問し、事業のPRと実態調査を実施した。
- ③園から提出された「相談依頼票」に基づき園を訪問し支援するとともに、必要に応じ保護者面談や専門機関との連携を図った。
- ④就学支援体制の充実を図った。
 - ・「個別の指導計画」作成の支援
 - ・「すこやかファイル」作成と小学校への引渡し支援
 - ・「就学支援シート」作成と小学校への引渡し支援
- ⑤保護者の子育てに関する相談を実施した。
- ⑥発達障害に関する理解と支援のために、保育士・幼稚園教諭・関係職員を対象に研修会を実施した。

＜成果及び今後の取組み等＞

- 21年度こどもすこやか応援チームが関わったケース
 - ・支援を行った施設数 79施設
 - ・支援を行った児童数 132人
 - ・すこやかファイル作成数 24人
 - ・就学支援シート作成数 14人
- 成果として、就学に関する支援が明確になり、小学校と園との連携が強化された。
- 園支援や研修会を通し、配慮を要する児童の理解と具体的な対応力の向上、保護者に対してもこどもすこやか応援チームの活動内容や認知度が上がった。
- すこやかファイル等を作成した保護者からは、「就学前に学校に伝えることができて良かった。」という声が多かった。また、対象児童を迎える小学校からも「就学前に児童の様子や保護者の思いを把握することができ、就学後の支援にたいへん役立つ。」という評価を得た。
- 今後は就学後のフォローと就学相談業務の強化、「個別の指導計画」作成年齢の幅を広げる等、より良い支援体制づくりを進める。

＜事務評価委員会の意見等＞

- すこやかファイルが、幼保・小・中の連携により積極的に使われればよいと思う。

【保育サービスの充実（担当：保育課）】

＜21年度の取組み＞

- 保育需要に見合うサービス提供の一環として、各種特別保育を実施した。

- ①一時保育事業 30か所
- ②休日保育 3か所
- ③地域子育て支援センター 30か所（センター型）
- ④病後児保育事業 4か所

<成果及び今後の取組み等>

○今後の保育需要に対する適切なサービスの提供に努める。

<事務評価委員会の意見等>

○祖父母と同居、近居の場合、子育て方法が親世代と祖父母世代で異なっていることに、戸惑いを感じているという声がある。今後、様々なニーズに対応できる保育サービスの提供に努めてほしい。

【子育てを支援するサービスの拡充①（担当：子ども家庭課）】

<21年度の取組み>

- 仕事と育児を両立するため、児童館・児童クラブ及び地域における育児の相互援助組織である、ファミリー・サポート・センターを運営した。
- 児童クラブの定員超過状況解消に向けた取組みとして、児童クラブの登録方法を通年利用と一時利用の二つの形態に分けている。

<成果及び今後の取組み等>

- 平成21年度ファミリー・サポート・センターの状況
 - ①平成22年3月末現在登録会員数 1,142人
 - ②平成21年度サポート活動件数 6,067件
- ファミリー・サポート・センター事業のPR及び会員獲得を進めるため、会員と子育て支援に関心のある市民との交流会を実施する。
- 児童クラブの定員超過解消に向けた取組みとして、大規模児童クラブの分割又は増設を進める。

<事務評価委員会の意見等>

○子どもの成長に合わせた、祖父母向けの子育て支援学習の機会があると、お互いに情報を共有できて安心できると思う。

【子育てを支援するサービスの拡充②（担当：保育課）】

<21年度の取組み>

- 一時保育事業を継続実施した。（30か所）
- 子育て支援センター事業を継続実施した。（30か所）

<成果及び今後の取組み等>

○適切な利用者へのPR周知により、サービス利用者の拡大を図る。

2 人材と文化をはぐくむ人間性豊かなまちの実現

(1) やる気や学ぶ意欲を引き出す教育の推進

(熱中！感動！夢づくり教育の推進)

目 標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成 20 年度 達成 値	平成 21 年度 達成 値
子ども一人一人の実態に応じたきめ細かな指導ができる体制を整える。 【アシスタントティーチャー（教育補助員）の配置数】	39人 (平成 18 年度)	45人 (平成 22 年度)	45人	46人
教育に参加・協力する地域の団体、NPO等を増やす。 【地域・子ども元気塾の支援団体数（文化芸術・体育系）】	26団体 (平成 18 年度)	30団体 (平成 22 年度)	28団体	22団体

■施策の内容

【どの子にもわかる授業の実現①（担当：学校教育課）】

<21 年度の取組み>

○学習指導、生徒指導等の教育活動の充実を図るため、教育活動の補助を必要とする学校に教育補助員を配置した。

重点校（小学校）1校（2名）、（中学校）3校（6名）

小学校 25校（25名）

中学校 13校（13名）

○外国語を通して、国際社会に通用する表現力やかかわる力を身に付けさせるため、ALT（英語指導助手）とJTL（英語指導員）を全小中学校に派遣した。

小学校 低学年4時間 中学年4～8時間 高学年12時間

中学校 全学年に対して2週間に1回程度

○市内の教員が国際的な視野から教育活動ができるように、ハワイ州ホノルル市への中学生派遣にあわせて、教員2名を海外に派遣した。（インフルエンザにより、派遣先と派遣期間が変更となった。）

<成果及び今後の取組み等>

○生徒指導や学習指導等において特に支援が必要な学校に対して、重点的に複数の教育補助員を配置したことにより、児童生徒に教師等が向き合う時間、個に応じたきめ細やかな対応が今まで以上に確保され、学習支援の充実やト

ラブルの未然防止等に効果が見られた。

- ALTとJTLがペアで小学校を訪問することで、児童が、文化の異なる人などとも積極的にかかわって、活発にコミュニケーションを図ろうとしている。小学校で培われた意欲等を中学校で生かすために、英語指導室で指導用のパンフレットを作成、中学校に配布して、英語教員の意識改革を図り、生徒が「わかる」授業の実現を図った。
- 教員海外研修事業により、教員自身が視野を広げることができた。このことにより、児童生徒への国際理解教育の一層の充実が図られた。

【どの子にもわかる授業の実現②（担当：学務課）】

＜21年度の取組み＞

- 小中学校規模適正化基本方針の検討のため、「学校の適正規模と効果的な配置検討部会」を計4回（20～21年度）開催し、検討部会から意見を受けた。
（内容）
 - ・複式学級の解消について
 - ・教育効果、学習環境の観点からの適正規模について

＜成果及び今後の取組み等＞

- 検討部会からの意見を参考にし、教育委員会内でワーキングチームを設置し、学校規模の適正化に向けて検討を行う。

＜事務評価委員会の意見等＞

- 学校規模の適正化は避けて通れない大きな課題である。地域との関係もあれば、学校の在り方にも関係してくる。将来的な見通しを踏まえて議論が必要である。

【どの子にもわかる授業の実現③（担当：教育センター）】

＜21年度の取組み＞

- 教員の資質・指導力の向上を図るために、研修講座、要請研修、教育研究論文の募集事業、教員サポート錬成塾、ミドルリーダー養成研修、教育講演会等を実施した。

＜成果及び今後の取組み等＞

- 研修講座については、163講座（教科指導、特別支援、情報・視聴覚、教育相談、幼児教育研修等）を開設し、小中養護学校、保育園等から延べ約3,000人が受講した。研修後のアンケートでは、受講者からは満足との評価を得ており、後日行った抽出アンケートでも、回答者すべてが研修内容を授業改善に「生かした」「今後生かしたい」と答えていた。今後も教職員の資質・指導力の向上を目指して、研修内容の充実を図っていく。
- 要請研修については、延べ189回実施した。各学校の校内研修の支援が主な内容である。言語活動の充実や外国語活動の理解と指導の在り方など、新学習指導要領の強調事項、新しい学習内容にかかわる要請が目立った。

- 教育研究論文については、196編の応募があり、年々応募数が増加している。応募した学校は9割を超え、当事業に対する理解が深まっている。1年近い期間をかけて「構想・実践・まとめ」に取り組んだ論文が多く、審査に当たった大学教授や指導主事から年々レベルが向上しているという評価があった。
- 教員サポート錬成塾については、ベーシックコース及びクリエイティブコースに78人の応募があり、信頼され子どもに感動を与える人間性豊かな教師の育成を目指してマンツーマン指導を行った。事後のアンケートでは、受講生、所属長とも成果が大きいと評価しており、ニーズに対応できる研修として定着してきた。
- ミドルリーダー養成研修については、3期目の修了生を送り出し、事業が定着しつつある。社会、理科、情報・視聴覚、教育相談・学級経営の4分野の実践的研究を行った。その成果を実践研究集録第3集として刊行し、市内教員の参考とするため各学校に配付した。いずれも、子ども理解に基づく研究であり、若い教員の参考となる内容である。研修生は、それぞれの分野において、各学校・地域でリーダーとして活躍している。
- 教育講演会については、8月に金田一秀穂氏を招き「言葉で育てる、言葉を育てる」を演題として開催した。750人の参加があり、今日的なテーマで有意義であったという評価が多かった。今後も長岡市の教育の充実のため、各界の第一線で活躍する識者を講師として迎えて実施していく。

【地域の力、市民の力を生かした教育の推進（担当：学校教育課）】

＜21年度の取組み＞

- 市民力・地域力を教育に生かすため、地域の団体、NPO等が自主的に行う子どもを対象とする活動（自然体験活動、伝統文化の継承、環境美化活動、スポーツ・レクリエーション活動等）に対し、地域・子ども元気塾事業として助成金を交付した。（事前説明会及び公開審査会を経て助成団体を決定）
 - ・自然・科学・文化・芸術分野 12団体（申請12団体）1,857千円
 - ・スポーツ・レクリエーション分野 10団体（申請10団体）1,798千円
- 開かれた学校づくりを推進するため、中学校区単位での教育フォーラムや全市民を対象とした教育シンポジウムを開催した。
 - ①地域連携フォーラム（26中学校区で開催）
 - 中学校単位で校区内の実情に応じたテーマを設定し、講演会やパネルディスカッション等を実施した。
 - ②いきいき教育推進懇談会（10月18日（日））
 - 出席者：保護者、教職員、一般市民等約350人
 - 「長岡の夢づくり教育～子どもたちに夢を描く力と生き抜く自信をはぐくむために～」をテーマに、学校と地域、保護者が連携した特色ある取組を3つ紹介してもらい、その後、地域で幅広く活動している方から講演をい

ただいた。

＜成果及び今後の取組み等＞

- 地域・子ども元気塾事業では、公開審査会を実施した結果、申請事業の内容等が十分明らかになり、公正・公平な審査を経たNPO団体等に助成を行うことができた。このことにより、地域の力や市民の力を生かした教育が推進された。
- 地域連携フォーラムは、各中学校区の実情に応じたテーマを設定することにより幼・保、小、中学校の保護者、教職員及び地域の教育関係者等との連携が図られた。また、いきいき教育推進懇談会は、普段なかなか知る機会のない地域の方の活動を聞くことができ、地域力、市民力を教育に生かすことの大切さを実感する場を提供することができた。

【熱中・感動体験活動の充実（担当：学校教育課）】

＜21年度の取組み＞

- 子どもが夢中になる、感動する、夢につながる活動を充実させるため、熱中・感動体験活動（全43事業）を4つに体系化し、取り組んだ。（前年度より1事業増）
 - ①個性・能力を伸ばす事業 21事業
 - ②感性・情操を豊かにする事業 8事業
 - ③地域・自然を愛する心をはぐくむ事業 12事業
 - ④社会の一員としての意識を高める事業 2事業

＜成果及び今後の取組み等＞

- 今年度から新たに中学生を対象にしたロボット工作教室を開催したことにより、従来から実施している小学生工作教室やロボコン大会で培われた科学への興味や創造性を中学生までつなげることができた。
- 中間評価を実施した結果は、各事業とも総じて高評価となった。これからも着実に事業を継続していく。

＜事務評価委員会の意見等＞

- 学校や地域に取組みの偏りが無いよう、今後も配慮してほしい。
- 43事業あることは素晴らしいことである。同時に、子ども一人一人が体験してよかったと思えるものにすることが大切である。
- 子どものやる気や学ぶ意欲を引き出す体験活動の時間を、今後も確保してほしい。
- 各教科・領域の学習指導とも関連を深め、体験活動の一層の充実・発展を期待している。

【幼稚園教育・高等教育の振興①（担当：学務課）】

＜21年度の取組み＞

- 長岡市内の私立高等学校3校に対し、運営費を補助した。

補助金総額 16,080千円

○私立高校就学者の保護者の経済的負担を軽減するため、学費の助成を行った。

助成対象人数 505人

助成金総額 10,007千円

<成果及び今後の取組み等>

○今後も私立高等学校の健全経営のための支援を継続していく。

○保護者の経済的負担軽減は、国の支援制度が創設されたことに伴い、助成方法を検討する。

<事務評価委員会の意見等>

○お金がないために子どもが学校に行けない状況があってはならない。親の収入の差が子どもの教育の格差につながるという話がある。米百俵の精神に基づき、引き続き支援を継続してほしい。

【幼稚園教育・高等教育の振興②（担当：保育課）】

<21年度の取組み>

○長岡市内の私立幼稚園に対し、次のとおり運営費等の補助を行った。

①運営費等補助

17園 補助金総額 14,044千円

②預かり保育推進事業費補助

10園 補助金総額 1,220千円

③障害児教育費補助

2園 補助金総額 392千円

○私立幼稚園就園奨励費補助金として、私立幼稚園に在園する園児の保護者の経済的負担の軽減を図るため、各世帯の所得状況に応じて保育料及び入園料の一部を国と市で補助した。また、補助金受給者のうち満3歳児を除く園児の保護者に対し、市単独で上乗せして私立幼稚園就園費助成金を支給した。

①私立幼稚園就園奨励費補助金（入園児に対する支給割合76.02%）

支給対象者 1,458人 補助金総額 126,861千円

②私立幼稚園就園費助成金（市単独助成分）

支給対象者 1,299人 助成金総額 5,172千円

<成果及び今後の取組み等>

○今後も私立幼稚園教育の振興を図り、また保護者の経済的負担軽減のための支援を継続していく。

(2) 子どものサポート体制の充実

目 標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成 20 年度 達成 値	平成 21 年度 達成 値
問題行動、いじめ・不登校、児童虐待などについて、関係機関等の連携による予防・対応を推進する。 【心ふれあい相談員の配置校】	12校 (平成 18 年度)	40校 (平成 22 年度)	27校	30校
特別な支援を必要とする児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じ、必要な支援ができる体制を整える。 【介助員及び特別支援介助員の配置数】	82人 (平成 18 年度)	95人 (平成 22 年度)	104人	113人
中越大震災で被災した児童生徒の心のケアを推進する。 【臨床心理士等のカウンセラーによる診断児童生徒数】	114人 (平成 17 年度)	50人 (平成 22 年度)	31人	31人

■施策の内容

【生徒指導の充実（担当：学校教育課）】

<21 年度の取組み>

○問題行動やいじめ・不登校、児童虐待など、子どもをめぐる様々な問題への対応と予防を図るため、「子どもふれあいサポート事業」を実施した。

- ①サポートチーム会議の開催 22件
- ②子どもサポートコール相談件数 46件
- ③適応指導教室（長岡フレンドリールーム、栃尾やまびこルーム、寺泊はまちゃん教室、おぐに日だまりルーム）の設置及び訪問相談員（2人）の派遣
- ④心ふれあい相談員の学校への派遣 19人を30校へ派遣
- ⑤こどもサポート相談会の開催 2回

<成果及び今後の取組み等>

○サポートチーム会議の開催により、困難な事例に対して、各関係機関が専門的な立場でかかわり、役割分担することで、より適切な対応が取れるようになった。

○適応指導教室では児童生徒の状況に応じて、学習以外にも体験活動や人間関係づくり等の多様な活動を行い児童生徒の適応を促す援助ができた。さらに各学校との連携を深め、適応教室への通級や訪問相談につなげたい。

<事務評価委員会の意見等>

○子どもをめぐる様々な問題については、適切な対応は無論重要であるが、予防がより重要である。難しいこととは思いますが、引き続き取り組みの強化を期待したい。

【特別支援教育の充実（担当：学校教育課）】

<21年度の取組み>

○児童生徒一人一人のもつ可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加する力をはぐくみ、個々の教育ニーズに応じた特別支援教育を推進するため、介助員等の人的支援や特別支援学級の新增設等環境整備の充実を図った。

①養護学校への介助員・看護師の配置	介助員 18人	看護師 2人
②特別支援学級への介助員の配置	39校	57人
③通常学級への介助員の配置	28校	38人
④特別支援教育アシスタントの配置	21校	24人
⑤特別支援学級の新增設	小学校 8学級	中学校 2学級
⑥難聴通級指導教室の設置	小学校 1教室	

<成果及び今後の取組み等>

○介助員、特別支援介助員、特別支援教育アシスタントの適正な配置を図り、個に応じた支援を推進することができた。

○小・中学校特別支援学級を 10 教室新增設、難聴通級指導教室を小学校に 1 教室新設した。特性に応じた指導・支援を通して自己肯定感を高めるとともに、基本的な生活習慣の定着、コミュニケーションや社会性の向上等、成果が見られた。

○通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の割合が増加傾向にあることから、特別支援学級及び通級指導教室の設置を計画的に進めていく必要がある。また、養護学校高等部在籍生徒の増加に対応して、新たな施設設備や教育課程の検討が急務である。

<事務評価委員会の意見等>

○障害者の若者が社会で自立しにくい実態がある。障害者も社会の一員として働く場を確保できるよう、教育委員会としても力添えをお願いしたい。

○卒業後、就労する生徒や施設に入る生徒など進路は様々であるが、全ての生徒が適切な進路に進めるよう支援できればよいと思う。

○障害のある子どもの親の中に、通常学級に子どもを通わせたいという親もいる。保護者への説明を十分に行い、理解をいただいた上で、最適な進路を選択してもらうことが大事である。

【心のケア対策の充実（担当：学校教育課）】

<21年度の取組み>

○中越大震災後の学校内における日々の児童生徒の心のケア体制を支援するため、養護教諭等への専門的な指導、研修を行うとともに業務の補助体制を構築した。

①新潟大学の臨床心理士等による、心のケア担当教諭に対する個別指導
 受講教諭数 11人

②校内支援体制を充実させるため、心のケア担当者への全体研修会を実施
 各学校1人参加（86人） 年1回開催

③養護教諭が心のケアに関する業務を行うための職務環境を確保するための補助員の派遣
 20校に延べ300日派遣

<成果及び今後の取組み等>

○心のケア担当教諭等が新潟大学の臨床心理士等の指導を受け、的確なケアを行うことにより、カウンセリングを受ける児童生徒が減少した。

○全体研修会を開催することで、校内支援体制の見直しの機会を得ることができた。

○養護教諭への補助員の派遣により、養護教諭が心のケアを必要とする児童生徒に接する時間が増えた。また、健康相談等本来の業務に専念することができた。

○心のケアについては、長期的、継続的な取り組みが必要であり、引き続き担当教諭等に対する研修及び養護教諭補助員の派遣を行う必要がある。

(3) 青少年の健全育成活動の推進

目 標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成20年度 達成値	平成21年度 達成値
青少年体験プログラムの参加者数を増やす。	1,380人 (平成18年度)	1,500人 (平成22年度)	1,447人	1,374人
街頭育成活動に対する育成員の参加率を高める。	73.3% (平成17年度)	80.0% (平成22年度)	84.5%	77.1%

■施策の内容

【交流・体験学習環境の充実（担当：子ども家庭課）】

<21年度の取組み>

- 第40回子どもフェスティバルは、第10回を迎える「ながおかポニーカーニバル」と合同で秋の連休に開催したが、参加者は161人の減少となった。
- 子どもフェスティバルや夏のつどい in 妙高については、市内の対象小学生全員にチラシを配布し、周知を図った。

<成果及び今後の取組み等>

- 「夏のつどい in 妙高」は、長岡地域以外の参加者が増加し、参加者の交流を図ることができた（参加者85人）。平成22年度は、事業のマンネリ化防止のため会場を磐梯へ変更し、体験プログラムを検討する。
- 「みんな友だち4・5年生」は、他のスポーツ活動の日程と調整したことにより、参加者が80人増加した。
- 定員に満たない事業については、プログラムや募集方法の見直しを行い、参加者の増加に向けて検討する。

【非行防止活動の充実（担当：子ども家庭課）】

<21年度の取組み>

- 青少年育成員に対して巡回先での対応の仕方や研修を行い、非行防止活動の充実を図った。

①街頭育成活動実施状況

実施回数466回、参加育成員数延1,725人
補導者数279人

②青少年相談活動実施状況

面接23件（延128回）、電話140件
メール79件（延361回）

<成果及び今後の取組み等>

- 街頭育成活動における育成員の参加状況は、本年度は学校でのインフルエンザの流行による学校内の対応から、教員の育成活動への参加が落ちたため参加率は低くなったが、今後は特に新任育成員に対して育成活動の指導等の充実を図り参加率を高めたい。

<事務評価委員会の意見等>

- 最近、街頭などで見かける子どもが少なくなっているが、子どもの姿が見えなくなることが一番心配である。街頭育成の時間帯や手法についても検討していく必要があるのではないか。
- 街頭の声かけについては、上からの目線にならないように、今後とも留意してほしい。

(4) 安全・安心な教育環境の整備

目 標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成 20 年度 達成 値	平成 21 年度 達成 値
「地域の子どもは地域で守る」ことのできる体制を整える。 【小学校区単位の「セーフティーパトロール」団体の組織率】	67.6% (平成 17 年度)	100.0% (平成 22 年度)	100%	100%
市立小・中・養護学校の校舎・屋内運動場の耐震化率を高める。	48.4% (平成 17 年度)	62.5% (平成 22 年度)	71.8%	77.0% ※旧川口町を含む

■施策の内容

【子どもの安全確保を図る体制づくりの推進（担当：学校教育課）】

<21 年度の取組み>

○登下校時の通学路及び校区における児童生徒の安全確保を図るため、セーフティーパトロール事業等を推進したほか、学校や警察から報告を受けた不審者情報のうち、事件、事故に結びつく可能性のある情報を小中学校及び関係機関に提供した。

①通学路点検の実施 全学区（小学校 59 校区、中学校 26 校区）

②地域住民によるセーフティーパトロール団体の設定 59 団体

③学校教育課が小中学校、関係機関へ提供した不審者情報 4 件

○不審者、災害等の緊急情報を学校から保護者に一斉送信する緊急情報配信システムを 3 小学校（浦瀬小、中之島中央小、脇野町小）に試験的に導入し、システムの内容、効果を検証し、今後の導入、運用方法等を検討した。

<成果及び今後の取組み等>

○市内 59 小学校区全区に地域住民によるセーフティーパトロール団体等による子どもの安全を守る活動が実施された。

○学校緊急情報配信システム検討については、メール配信の有効性は認められたが、緊急時の確実な伝達手段としてはまだ不十分であるため、全市一斉の導入はせず、個々の学校の対応に任せるとの方針を出し、検証を終了した。

<事務評価委員会の意見等>

○難しいことだとは思いますが、警察の取組みである、「こども 110 番の家」との連携や情報交換が必要だと思う。

○地域を見守っている人がいて頼もしいと感じている。

【防災・防犯教育の充実（担当：学校教育課）】

＜21年度の取組み＞

- 児童生徒用の防災パンフレット「中越大震災に学ぶ」を活用して児童生徒に指導するとともに、各学校で次の取組みを実践した。
 - ・各学校で作成した通学路安全マップの改善と活用 全学校
 - ・地震、火災を想定した防災訓練、避難訓練の実施 全小中学校
 - ・不審者侵入等を想定した防犯訓練、防犯教室の実施 全小中学校

＜成果及び今後の取組み等＞

- 各学校で防災・防犯訓練等を消防署、警察署等の関係機関と連携し実施することにより、児童生徒の防災・防犯に対する意識が定着してきている。
- 危険を予測し、回避する能力を身に付けさせる防災・防犯教育の充実を今後も図っていく。

＜事務評価委員会の意見等＞

- 防災、防犯訓練がマンネリ化しているように感じるので、訓練内容を工夫してほしい。
- 次世代の防災・防犯教育は、今後も学校・地域で取り組むことが大切である。

【学校施設における安全性の確保（担当：教育総務課）】

＜21年度の取組み＞

- 小学校 11 棟、中学校 6 棟の耐震化工事を実施したほか、平成 21 年度で改築予定の棟を除く全ての棟で耐震診断が完了した。

＜成果及び今後の取組み等＞

- 平成 19 年度において、設定した目標値を達成することができたが、平成 21 年度はさらに、5.2 ポイントの上昇となり、77.0%になった。今後も耐震化率 100%に向けて計画的に事業を推進していく。

＜事務評価委員会の意見等＞

- 財政上の難しさは分かるが、耐震化率 100%に向けての事業の推進を急いでもらいたい。

(5) 歴史的・文化的遺産の継承及び活用促進

目 標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成 20 年度 達成 値	平成 21 年度 達成 値
歴史的価値が高い 建造物の実態把握・保存を進め、教育や地域振興に活用できる機会を増やす。 【市内に所在する歴史的価値が高い建造物の国登録文化財登録件数】	5 件 (平成 17 年度)	2 5 件 (平成 22 年度)	2 1 件	2 1 件
地域に伝わる民俗芸能の適切な保存を進め、後世に伝承される機会を増やす。 【記録保存用にビデオ収録した民俗芸能の演目数】	1 7 9 演目 (平成 17 年度)	1 9 0 演目 (平成 22 年度)	1 8 6 演目	1 8 6 演目

■ 施策の内容

【歴史的・文化的遺産の保存及び継承（担当：科学博物館）】

<21 年度の取組み>

- 与板地域・寺泊地域の歴史的建造物調査を長岡造形大学に委託して行い、両地域の歴史的建造物の台帳を作成することができた。

<成果及び今後の取組み等>

- 歴史的建造物の未調査地域について順次調査を行う予定。調査後にどの物件について登録有形文化財に推薦するか^{じかた}の選考方法を確立する必要がある。
- 民俗芸能の記録撮影に関しては、長岡市民俗芸能協会内で多くが撮影し終えており、未収録演目は少なくなっている。しかし、舞手・地方の不足により現在撮影できない団体もある。また、協会に所属していない団体については旧市町村にて撮影されているものはあるが、未撮影演目も多くあると見られる。記録メディアのリニューアル化（ビデオからDVDへなど）、各地域に存在する民俗芸能の記録の一元的管理と活用など、今後研究していくべきことは多い。

＜事務評価委員会の意見等＞

○民俗芸能の記録による伝承以外にも、長岡ゆかりの偉人の業績を計画的に後世に伝えていく施策が必要だと思う。

(6) 市民主体の生涯学習の推進

目 標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成 20 年度 達成 値	平成 21 年度 達成 値
生涯各期における学習機会の場として、中央公民館の利用者数を増やす。	79,696 人 (平成 17 年度)	110,000 人 (平成 22 年度)	75,854 人	74,114 人
「ながおか市民大学」など各種講座を開催し、学習機会の場を提供する。 【各種講座の開催数、参加人数】	33 講座 163 回 1,408 人 (平成 17 年度)	40 講座 190 回 2,000 人 (平成 22 年度)	32 講座 135 回 1,799 人	35 講座 130 回 1,562 人
市民が市内の図書館を利用する機会を増やす。 【市民 1 人当り年間図書館資料貸出数】	5.7 点 (冊) (平成 17 年度)	6.5 点 (冊) (平成 22 年度)	6.40 点 (冊)	6.41 点 (冊)

■ 施策の内容

【生涯学習機会の充実①（担当：中央公民館）】

＜21 年度の取組み＞

- 青少年から高齢者まで、幅広い年齢層を対象とした講座を開催した。
- 地域の文化や歴史、健康、医学、現代的課題、自然分野等多彩なテーマの講座を開催した。
- 各講座とも「市民ニーズ」や「今が旬のテーマ」を考慮した講座の実施に努めた。例えば、成人講座では、かつて長岡城があった厚生会館跡地の発掘が行われたことに着目し「長岡城の遺跡」講座を開催したほか、新潟お笑い集団 NAMARA 代表による講座や野菜ソムリエの講座など、新しい分野の講座企画に挑戦した。
- ながおか市民大学では、市内 3 大学と高専の得意分野を活かし、市民向けに魅力ある 13 講座を開催した。また、引き続き保育ボランティアによる幼児保育サービスを実施し、子ども連れでも講座に参加できるような環境づくりに努めた。

＜成果及び今後の取組み等＞

- 「論理力に差をつける！伝わる話し方講座」では、申込開始当日に定員に達し、申込締め切り後も問い合わせが絶えず、新たな市民ニーズを把握することができた。また、新潟大学安保徹先生の「覚醒する免疫力」では定員を大幅に上回る申込があったことから、会場を変更しての大規模な講座となった。
- 今までにない新しい分野の講座を開催し、さらなる新規受講者の獲得、中央公民館講座の満足度向上に努めたい。

＜事務評価委員会の意見等＞

- 生涯学習は市民自らが主体となって行う活動であり、市民が中心となって運営、活動できるような体制づくりを望む。
- 講座には男性よりも女性の参加者が多い。男性を惹きつける魅力ある講座を検討する必要がある。

【生涯学習機会の充実②・生涯学習関連施設の整備①（担当：中央図書館）】

＜21年度の取組み＞

- 予約図書を受取や、市内図書館で借りた本の返却ができる「取次所」を合併地域6か所に設置した。
- 電話による貸出延長手続きができるよう、専用電話を設置した。
- システム更新に伴い、インターネット上から貸出延長手続きができるようにした。

＜成果及び今後の取組み等＞

- 取次所や貸出延長専用電話などの取組みにより、市民1人当たりの貸出冊数は目標値に近づきつつある。
- 平成22年度は川口地域に取次所を設置し、米百俵号による巡回を開始する。
- 平成22年は国民読書年にあたることから、記念イベントを計画している。これらのイベントにより集客が期待でき、貸出冊数の増加も見込めると考えている。

【生涯学習関連施設の整備②（担当：科学博物館）】

＜21年度の取組み＞

- 史跡馬高・三十稲場遺跡の整備に伴い、馬高縄文館の建設工事（本体建築工事、電気設備工事、機械設備工事、展示工事）を平成20年度から継続して行った。当初の予定どおり8月末に竣工、9月19日に開館。遺跡や遺物の展示のほか、縄文文化に関わるイベントや体験学習を開始した。
- 市町村合併に伴う資料収集・調査については、主に寄贈資料を受領した。

＜成果及び今後の取組み等＞

- 史跡馬高・三十稲場遺跡の整備に伴い、環境整備工事（復元住居建築）を実施する。昨年度建設した馬高縄文館と一体になって、史跡公園の一部として活用をはかる。

○今後、科学博物館の幸町庁舎への移転（リニューアル）も考慮して、新市域全体に関わる資料収集・調査に努める。

(7) スポーツ・レクリエーション活動の推進

目 標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	平成 20 年度 達成 値	平成 21 年度 達成 値
市民が身近な場所で運動やスポーツを行う拠点づくりを進める。 【市内の教室・クラブ開設数】	724 クラブ (平成 18 年度)	900 クラブ (平成 22 年度)	777 クラブ	787 クラブ
ジュニア期からの選手育成強化システムの確立により、競技選手の育成・強化を推進する。 【市内の中学・高校生の全国大会県予選において、ベスト4に進出した生徒数】	398 人 (平成 18 年度)	500 人 (平成 22 年度)	423 人	431 人
スポーツ・レクリエーション施設のサービス水準や効率性を高める。 【施設管理に指定管理者制度を導入した施設数】	9 施設 (平成 18 年度)	20 施設 (平成 22 年度)	18 施設	21 施設

■施策の内容

【生涯スポーツ活動の充実（担当：スポーツ振興課）】

<21 年度の取組み>

- コミュニティスポーツ推進組織の中核となる体育指導委員、体育推進員に対し、年間を通じて、ニュースポーツ等の実技のほか、コミュニケーションスキルの向上等を目指した研修会を開催した。
- 地域住民の自主的なコミュニティスポーツ活動の活性化を図るため、地域のコミュニティスポーツ推進組織の育成に要する事業に対し補助を行った。
- 長岡市体育協会と連携し、各種スポーツ大会や教室等を開催するほか、地域

で実施する事業に専門の講師を派遣した。

- 市民のスポーツ活動のニーズに応えるため、長岡市体育協会やレクリエーション協会等の組織や財政基盤の確立を図り、各団体が積極的な活動を展開できるように財政支援を行った。

＜成果及び今後の取り組み等＞

- 地域スポーツ活動の中核となる体育指導委員等の人材育成を図るとともに地域の活動推進組織の充実とスポーツの機会を提供することができた。
- 身近で参加しやすい種目の大会を開催することで、多くの市民が、地域を越えて交流を図ることができた。
- 地域の日常的なスポーツ活動のきっかけづくりとして、専門の講師を派遣したことで、多くの地域でニュースポーツ等の体験を行うことができた。
- 体育協会加盟 46 競技団体、スポーツ少年団 151 団体、レクリエーション協会加盟 16 団体を通じ、多くの市民がスポーツ・レクリエーションを楽しむことができた。
- コミュニティスポーツ推進組織の中核となる体育指導委員、体育推進員に対し、引き続き、資質向上のための研修を行っていく。
- 地域で取り組むスポーツ活動の実践について、地域住民が楽しみながら参加できるよう、良い活動事例を紹介する等、具体的な取り組みをPRしていきたい。

＜事務評価委員会の意見等＞

- スポーツ教室は男性の参加が少ないように思う。社会参加という意味で、男性から今以上に参加してもらえよう、PR等に努めてほしい。
- 生涯スポーツ活動への参加は、参加者同士のコミュニケーションの向上だけでなく、生涯を通して自分の健康に責任を持つことに繋がると思う。高齢社会が進展している中、市民が自ら健康な身体を維持できるよう、福祉とも連携しながら啓発活動を進める必要がある。

【競技スポーツの振興（担当：スポーツ振興課）】

＜21年度の取り組み＞

- 国体開催に向けた特別強化種目も含め全市的な取り組みを十分行ってきた。
- 国際的または全国大会出場者の栄誉を称え、激励会を開催し、報奨金を交付した。

＜成果及び今後の取り組み等＞

- 2009トキメキ新潟国体では、102名の長岡市関係選手が参加し、水泳の河本耕平選手が日本新記録で優勝したのをはじめ、全体で優勝6件、入賞42件に関わり、新潟県の総合優勝に大きく貢献した。
- 国際的または全国大会出場者は、年々増加している。
- 国体は、選手育成・強化、大規模大会の運営、スポーツへの市民参加等、様々な成果を残した。それらの成果を今後のスポーツ振興やまちづくりに活かす

ていく必要がある。

【スポーツ・レクリエーション施設の整備及び管理運営（担当：スポーツ振興課）】

＜21年度の取組み＞

- 長岡ニュータウン運動公園の第1期工事として、サッカー場1面及び駐車場の整備に向けた実施設計を行った。
- 中之島体育館の改築工事に向けた実施設計を行った。
- 住民サービスの向上と管理運営の効率化を図るため、希望が丘テニス場を含む5施設に対して指定管理者制度を導入した。

＜成果及び今後の取組み等＞

- 長岡市スポーツ施設整備基本構想に基づいた施設整備や、既存施設の効果的な利活用を推進していく。
- 悠久山野球場の大規模改修工事を平成23年度に実施するため、改修工事の設計委託を行う。
- トキめき新潟国体の実績を生かして、高度なレベルのアスリートを数多く育成していくため、専門的な練習施設の整備が必要不可欠である。その一例として器械体操専用練習場の整備等について今後検討する。
- 既存の体育施設に対して施設の規模や内容を確認しながら指定管理者制度を導入し、住民サービスの向上と管理運営の効率化を図る。